

展 示

特別展 堺緞通ものがたり—日本の緞通、世界を結ぶ—

平成29年9月16日（土）～11月5日（日）

協力：堺式手織緞通技術保存協会、大阪刑務所

「緞通（だんつう）」は中国から伝来し、日本で織られるようになった手織りの敷物（絨毯）です。堺緞通は天保2年（1831）、堺の糸物商である藤本庄左衛門が鍋島緞通や中国製絨毯に着目し、製品化したのが始まりです。明治10～20年代には第一回内国勸業博覧会などへの出品をきっかけに名声を博し、独自の技術改良なども経て、ピーク時の生産高は117万畳にのぼりました。日本国内のみならず欧米へも多く輸出し、堺緞通は世界の生活空間を彩りました。

本展は堺緞通を大々的に取り上げた初の展示であり、堺緞通の現物資料を中心に、堺緞通の製造にかかわった人びとにも焦点を当て、中国製絨毯や鍋島緞通、赤穂緞通などと併せて展示しました（図録A4版全82頁）。また、当館所蔵の大型堺緞通織機を稼働させ、堺式手織緞通技術保存協会の協力により製織実演をおこないました。

会期終了後には、出品資料のうち四点の堺緞通を当館へご寄贈いただきました。また展覧会開催を通じて得た知見を前号である『堺市博物館研究報告第37号』にまとめました（「松代藩真田家旧蔵の緞通について」）。あわせてご参照ください。（堀川）

【展示構成】

1 古い緞通について考える

- 1-1 江戸時代の中国製絨毯
- 1-2 江戸時代の緞通
- 1-3 明治時代の鍋島・堺・赤穂の緞通

2 鍋島緞通、堺緞通、赤穂緞通

- 2-1 鍋島緞通
- 2-2 堺緞通
- 2-3 赤穂緞通

3 堺緞通をめぐる人びと

- 3-1 緞通王 藤本荘太郎
- 3-2 藤本商会
- 3-3 井上関右衛門と藤本荘太郎
- 3-4 藤本商会の図案
- 3-5 堺緞通の関係業者抄

4 堺緞通ギャラリー

5 今につながる堺緞通

- 5-1 辻林峯太郎の業績
- 5-2 堺式手織緞通技術保存協会
- 5-3 大阪刑務所での取り組み

【関連事業】

◆講演会

日時：10月1日（日）午後2時～午後3時30分
講師：国立民族学博物館名誉教授・吉本忍氏
場所：博物館ホール

◆学芸講座

日時：10月8日（日）午後2時～午後3時30分
講師：堺市文化財課学芸員・中村晶子
場所：博物館ホール、および本展会場

◆展示品解説

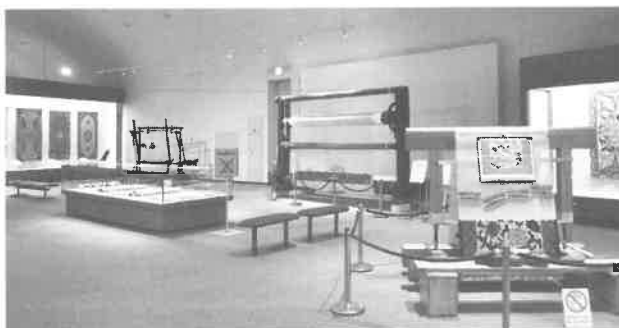
日時：9月17日（日）・10月21日（土）
各日午後2時～午後2時45分
講師：当館学芸員・堀川亜由美

◆堺緞通の製織実演

日時：会期中の火曜日
午後1時30分～午後3時30分
実演：堺式手織緞通技術保存協会
場所：本展会場内、大型堺緞通織機

◆緞通を知るワークショップ

日時：10月3日（火）・10月17日（火）
各日午後1時30分～午後4時
講師：堺式手織緞通技術保存協会、当館スタッフ
場所：地階学習室



企画展 富岡鉄斎一和泉国茅渟湖畔の寓居にて一

平成29年6月10日（土）～7月9日（日）

近代文人画の巨匠・富岡鉄斎（1836～1924）は、明治10年から14年にかけて42歳から46歳までという壮年期の一時期を官幣大社大鳥神社の大宮司・宮司として堺で過ごしました。この頃の作品には、落款に「茅渟湖畔之寓居」（堺の海辺の仮の住まいという意味）と記すものがよくあります。

当時、大鳥神社は「堺県」という「大阪府」とは別の行政区画にありました。堺県の県域は、現在の大阪府東部と南部に加えて、奈良県のほぼ全域という広いものであり、多くの古墳を有していました。明治10年（1877）2月、明治天皇が堺県に行幸し、畝傍山麓の神武天皇陵に参拝しましたが、この時、鉄斎は堺県令の税所篤に命じられ、行幸の道筋にある御陵や神社の位置を示した図巻を描いています。

本展ではこの図巻のほか、大鳥神社に伝わる鉄斎の作品や、漢学者の土屋鳳洲ら文人たちとの交流によって生まれた作品などを展示し、鉄斎の堺での画業を振り返りました。（宇野）

【展示構成と出陳作品】※は富岡鉄斎筆

第1章 大鳥神社大宮司・宮司として

1. 富岡鉄斎肖像写真 3枚 大鳥神社蔵
2. 「富岡鉄斎百鍊翁小照献納ニ就イテ」村岡力筆
昭和7年7月 大鳥神社蔵
3. 大鳥神社一覧表 明治11年
清荒神清澄寺鉄斎美術館蔵
4. 大鳥神社神幸図巻※ 明治11年 個人蔵
5. 湊焼扁額「鹽而不薦」富岡鉄斎揮毫・八代上田吉右衛門作 明治13年 大鳥神社蔵
6. 平清盛歌碑拓本 清荒神清澄寺鉄斎美術館蔵
7. 日本武尊像粉本※ 明治14年頃
清荒神清澄寺鉄斎美術館蔵
8. 倭武大神御像※ 明治14年 大鳥神社蔵
9. 事代主命神影※ 明治14年
清荒神清澄寺鉄斎美術館蔵

第2章 山水人物を描く

10. 溪山清風図※ 明治10～14年
清荒神清澄寺鉄斎美術館蔵
11. 漁夫打網図※ 明治13年
清荒神清澄寺鉄斎美術館蔵

12. 日本名所十二景図屏風※ 明治12年 個人蔵
13. 茅海晩景図（翰墨良縁巻のうち）富岡鉄斎筆
明治14年頃 個人蔵

第3章 御陵調査と明治天皇行幸

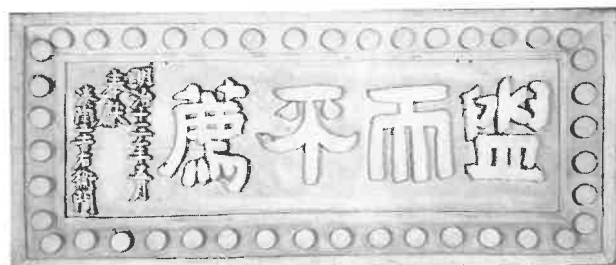
14. 御陵図絵并書抄（富岡鉄斎書入、包紙共）40枚
明治9年頃 清荒神清澄寺鉄斎美術館蔵
15. 巡陵日誌※ 明治9年
清荒神清澄寺鉄斎美術館蔵
16. 官記※ 明治6年～大正8年
清荒神清澄寺鉄斎美術館蔵
17. 堺県行在所御飾付図巻※ 明治10年
荒川豊蔵資料館蔵
18. 畝傍山御陵之図※ 明治時代初期
清荒神清澄寺鉄斎美術館蔵
19. 大和御陵位置図稿※ 明治9年頃
清荒神清澄寺鉄斎美術館蔵
20. 堺県行幸道筋官幣大社御陵位置図巻※
明治10年 荒川豊蔵資料館蔵
21. 『堺県地誌要略』藤田守著 明治10年発行
当館蔵

【関連行事】

◆特別鑑賞会 6月25日（日）午後2時～3時
当館所蔵の富岡鉄斎・板倉槐堂合作「牡丹野菜図」を堺市茶室・伸庵（堺市博物館敷地内）の床の間で鑑賞後、企画展の解説を行った。

◆展示品解説

日時：7月2日（日）午後2時～2時30分
講師：当館学芸員・宇野千代子



湊焼扁額「鹽而不薦」
富岡鉄斎揮毫・八代上田吉右衛門作
明治13年 大鳥神社蔵

企画展 シークレット・オブ・KOFUN—古墳のカギを見つけてみよう—

協力：大阪府立近つ飛鳥博物館

平成29年7月22日（土）～9月3日（日）

堺市内の文化遺産である百舌鳥古墳群は、近年では長山古墳やニサンザイ古墳などの発掘調査により埴輪や木製品が出土するなど興味深い発見が相次いでおり、世界遺産にも関連して注目を集めています。そのような中、子どもたちが自由研究などで博物館に来る機会の多い夏休みに、そもそも「古墳」とはどのようなものか、古墳から何がわかるのかについて、体験もまじえて楽しく知っていただけるような展示としました。また、展示関連として無形文化遺産理解事業コーナー展示「祖先祭祀—アジア諸国の祀り—」、「履中天皇陵古墳と七観山古墳」、「寺山南山古墳発掘調査速報展」を同時期に開催し、古墳や各地の葬制について考えるきっかけとなりました。（橘）

【主な展示品】※明記しているもの以外は当館蔵

1. タイムマシンで古墳時代へ！（古墳時代へタイムスリップ）
仁徳天皇陵古墳 模型
大仙中町遺跡 土師器（堺市文化財課蔵）
陶呂窯跡群出土 須恵器（堺市文化財課蔵）
2. 「KO」古墳のココに注目！
大塚山古墳 鉄鏃
カトンボ山古墳 鉄斧・子持勾玉
野中古墳 白玉（藤井寺市文化財課蔵）
3. 「FU」ふしぎ、不思議、百舌鳥古墳群の七不思議
ニサンザイ古墳 木柱（堺市文化財課蔵）
4. 「N」ん？！こんなところにも古墳が！
堺市鳥瞰図
5. 身近にあるよ！この古墳
百舌鳥古墳群写真パネル（堺市世界文化遺産推進室蔵）

【関連行事】

講演会「現在各地で活躍中！

若手研究者に聞く古墳のいろは」

場所：博物館ホール

◆第1回 埴輪と鉄器 7月30日（日）

（埴輪）大阪府教育庁・原田昌浩氏
午後1時30分～2時30分

（鉄器）高槻市教育委員会・三好裕太郎氏
午後2時50分～3時50分

◆第2回 鏡と須恵器 8月26日（土）

（鏡）四條畷市教育委員会・實盛良彦氏
午後1時30分～2時30分

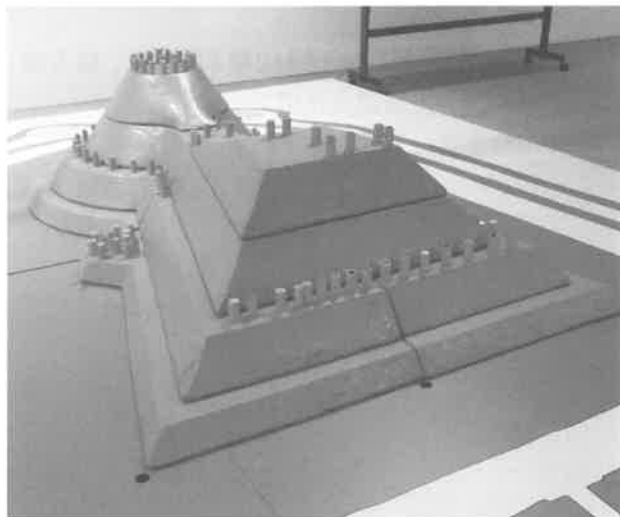
（須恵器）和歌山県教育庁・仲辻慧大氏
午後2時50分～3時50分

◆学芸講座

日時：8月13日（日）午後2時～3時30分

会場：博物館ホール・企画展会場

講師：当館学芸員・橘 泉



展示風景

企画展 泉北丘陵―谷あいの村々とニュータウン―

平成29年11月18日（土）～12月24日（日）

昭和42年（1967）から入居が始まった泉北ニュータウンは、平成29年に50周年を迎えました。泉北丘陵の上に位置するニュータウンと、谷あいの古くからの集落が共存する風景は、泉北丘陵を特徴付ける景観にもなっています。

本展では、この50年間に大きな変貌を遂げた泉北丘陵に注目し、ニュータウンができる以前のこの地域の人々の営みがわかる櫻井神社の宮座の記録「中村結鎮御頭次第」などに加え、ニュータウンの都市計画や形成過程に関する、当時の賃貸住宅の入居案内冊子資料や泉北高速鉄道建設・開業関係資料などをご紹介します、そのあゆみを振り返りました。

（渋谷）

【展示構成と主な展示品】

（1）谷あいの村々のくらしとつながり

- ・中村結鎮御頭次第
正平6年（1351）～元禄12年（1699）、個人蔵、当館寄託、市指定文化財
- ・和田性蓮処分状案
永仁2年（1294）、和田家文書、個人蔵、当館寄託、大阪府指定文化財
- ・和田谷文禄検地帳写
貞享5年（1688）、個人蔵、当館寄託
- ・諸事出入仕込帳
文政9年（1826）～嘉永4年（1851）、個人蔵、当館寄託

（2）ニュータウン、あらわる

- ・『泉北丘陵地区開発の調査研究』
昭和39年（1964）、堺市立中央図書館蔵
- ・賃貸住宅の入居案内冊子
昭和40～50年代、UR都市機構西日本支社蔵・大阪府住宅供給公社蔵
- ・泉北高速鉄道建設・開業関係資料他
昭和40年代、泉北高速鉄道株式会社蔵
- ・泉北高速鉄道100形・500形車両模型
昭和40年代、泉北高速鉄道株式会社蔵
- ・陶邑窯跡群の発掘関係の調査台帳他
昭和30～50年代、大阪府教育委員会文化財調査事務所蔵

【関連行事】

◆学芸講座

「泉北丘陵の歴史について」（展示品解説含む）

日時：11月26日（日）午後2時～3時30分

講師：当館学芸員・渋谷一成

場所：博物館ホール

◆展示品解説

日時：12月2日（土）・12月17日（日）

各日午後2時～3時45分

講師：当館学芸員・渋谷一成

場所：企画展会場



泉北高速鉄道開業（堺市広報課提供）

企画展 暮らしの原点をたどる—懐かしい道具と堺の風景—

平成30年1月6日（土）～平成30年2月25日（日）

本展では、堺で撮影された明治・大正・昭和の写真とともに、そのころに使われた道具を展示しました。木造校舎の学校や、かつての連合運動会の写真、戦争後になってしまった町の写真など、子どもから大人までが現代の身近な風景や暮らしと比較できるようにしました。発掘調査での出土品や観光資料なども合わせて展示し、当時の社会背景についても考えました。

また、期間中には学校関連行事として、市内の小学校3年生を対象に、企画展の見学や、昔の遊び道具の体験を含めたプログラムを実施し、38校の参加がありました。（橘）

【主な展示品】（明記しているもの以外は当館蔵）

1. 堺 今・昔

ガラス瓶（翁橋遺跡／堺市文化財課蔵）
下駄（大保遺跡／堺市文化財課蔵）
すま屋 引札（堺市立中央図書館蔵）
堺市名勝図（堺市立中央図書館蔵）
南海電車パンフレット（堺市立中央図書館蔵）
昭和乗合自動車チラシ（堺市立中央図書館蔵）
印刷原版（堺環濠都市遺跡／堺市文化財課蔵）

2. 食べる

馬鋤
千歯扱き
土臼 引札（個人蔵）
お釜・ふご
防空壕出土茶碗など
（堺環濠都市遺跡／堺市文化財課蔵）
氷冷蔵庫（個人蔵）

3. 暮らす

灯明具（堺環濠都市遺跡／堺市文化財課蔵）
安全コタツ
代用炭（東浅香山遺跡／堺市文化財課蔵）
足踏みミシン
蓄音機
ローラー式洗濯機（個人蔵）

4. 学校と遊び

謄写版

そろばん

卒業証書（個人蔵）

泥メンコ（堺環濠都市遺跡／堺市文化財課蔵）

土製品（堺環濠都市遺跡／堺市文化財課蔵）

【関連行事】

◆展示品解説

日時：1月8日（月・祝）・1月21日（日）

2月10日（土）各日午後2時～2時45分

講師：当館学芸員・橘泉

場所：企画展会場

◆体験学習会「むかしの遊びを体験してみよう」

日時：1月27日（土）・2月25日（日）

各日午後1時～4時

場所：博物館ホールほか



展示風景

企画展 堺市の指定文化財—古文書・典籍—

平成30年3月10日（土）～4月22日（日）

堺市内には、多くの「指定文化財」が伝わっています。その種別は多岐にわたり、絵画や彫刻、建造物や古文書、考古資料など有形文化財のほか、史跡・名勝・天然記念物・民俗文化財等、その数は100件以上にものぼります。

本展では、このうち「古文書・典籍」について、堺市博物館の館藏品や寄託品を中心にご紹介しました。また、あわせて指定文化財以外の古文書・典籍の中からも、堺の歴史を考えるうえでとくに興味深い資料を展示し、その魅力をご紹介しました。なお、和田家文書（個人蔵、当館寄託）については、本展会期中の平成30年3月23日付で大阪府の有形文化財（古文書）に指定されました。（渋谷）

【主な展示品】

（１）指定文化財

- ・ 開口神社文書（開口神社蔵、府指定有形文化財）
- ・ 反故裏書（真宗寺本）（真宗寺蔵、市指定有形文化財）
- ・ 『己行記』（妙國寺蔵、市指定有形文化財）
- ・ 『行功部分記』（妙國寺蔵、市指定有形文化財）
- ・ 『宝物集』（妙國寺蔵、市指定有形文化財）
- ・ 『山上宗二記』（当館蔵、市指定有形文化財）
- ・ 中村結鎮御頭次第（奥野家蔵、市指定有形文化財）
- ・ 「放鳥銃定限記碑」関係の柳原吉兵衛による石碑顕彰資料（当館蔵、市指定有形文化財附指定）

（２）指定文化財以外の展示品

- ・ 和田家文書（個人蔵、当館寄託）
- ・ 芝辻理右衛門家文書（当館蔵）
- ・ 半井家関係文書（当館蔵）
- ・ 明暦元年（1655）11月5日「半井ト養書状」（新収藏品、当館蔵）
- ・ 月次風俗諸職図屏風下張文書（当館蔵）

【関連行事】

◆学芸講座（展示品解説を含む）

日時：4月7日（土）2時～3時30分

演題：「堺市における古文書・典籍の調査と指定について」

講師：当館学芸員・矢内一磨

場所：博物館ホール・企画展会場

◆展示品解説

日時：3月24日（土）・4月15日（日）

各日午後2時～2時45分

講師：当館学芸員・渋谷一成、同・矢内一磨

場所：企画展会場



展示解説の様子（平成30年4月）

特集展示 上方(かみがた)名所
—屏風絵の世界—
平成29年4月21日(金)～5月14日(日)

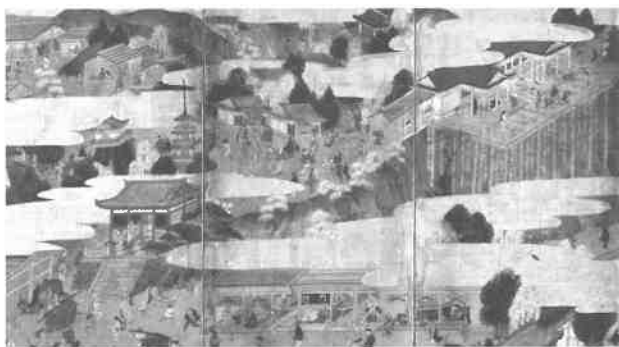
堺市博物館が所蔵する江戸時代の屏風のなかで、上方の名所を描いた作品を特集し、展示しました。コーナー展示の航路図とともに江戸時代の景色を楽しんでいただきました。(矢内)

【展示作品】(※は個人蔵、それ以外は当館蔵)
 摂津国名所港津図屏風 6曲1双
 嵐山観桜・高尾観楓図屏風(6曲1双)のうち、嵐山観桜図
 東山名所・祇園祭礼図屏風(6曲1双)のうち、東山名所図
 大和国名所絵図屏風 6曲1隻
 住吉浜遊楽図屏風 6曲1隻
 和歌浦名所図屏風 6曲1隻
 高野山図屏風 2曲1隻

【関連行事】

◆展示品解説

日時：5月3日(水・祝)午後2時～2時30分
 講師：当館学芸員・矢内一磨



東山名所祇園祭礼図屏風・清水寺付近(当館蔵・部分)

速報展「寺山南山古墳発掘調査速報展」
平成29年7月25日(火)～9月3日(日)
 主催：堺市文化財課

堺市西区上野芝町1丁にある寺山南山古墳は、履中天皇陵古墳の後円部北東部に位置する方墳です。濠の南辺は履中天皇陵古墳の外濠と一部が重なり共有していたと考えられ、履中天皇陵古墳の陪冢のひとつで5世紀初めまでに築造されたと考えられています。

平成11年度から5次にわたる発掘調査が実施され、二段築成の方墳で墳丘は長辺44.8m短辺39.2mの長方形であることがわかりました。今回は史跡整備に伴い平成28年度に実施した5次調査で出土した遺物を中心に展示しました。

この調査では、東辺で「造り出し」が確認され、その上部の第1段テラス面で冢形埴輪+家形埴輪が出土しました。百舌鳥古墳群のなかでも冢形埴輪の出土は珍しく、古墳での祭祀を考えるうえでも貴重な資料です。なお、この埴輪は補修復元され平成30年8月より常設展示(古代)で展示しています。

また、速報展の展示場所に隣接して当館主催の特集展示「履中天皇陵古墳と七観山古墳」を同時開催しました。詳細は次稿に記述しています。(續)



【主な展示品】

冢形埴輪、
 家形埴輪、
 朝顔形埴輪、
 円筒埴輪など
 堺市文化財課蔵



寺山南山古墳・冢形埴輪

【関連事業】

◆報告会

場所：博物館ホール
 日時：8月20日(日)午後2時～3時30分
 報告者：堺市文化財課・永井正浩

特集展示「履中天皇陵古墳と七観山古墳」
平成29年7月25日(火)～9月3日(日)

寺山南山古墳の速報展に関連して、同じく陪冢である七観山古墳と主墳の履中天皇陵古墳から出土した遺物を各所蔵者から借用して展示しました。

百舌鳥古墳群のなかで最初に築造された大王陵とされる履中天皇陵古墳は、全長365mで全国第3位の規模で5世紀初頭に築造されたと推測されています。

また、七観山古墳は履中天皇陵古墳の北側にあった直径約50mの円墳です。残念ながら昭和27年(1952)に土砂採集により墳丘は消滅しましたが、大正2年(1913)・昭和22年(1947)・昭和27年(1952)に遺物が出土しています。これら3基の古墳から出土した資料を比較検討することで、百舌鳥古墳群の造営初期段階の状況を紹介することができました。(續)



【主な展示品】

- ・履中天皇陵古墳 鞍形埴輪 宮内庁書陵部蔵
- ・七観山古墳(1913年出土遺物)
三角板革綴衝角付冑・三角板革綴衝角付冑・豎矧細板鋌留衝角付冑・鉄製素環頭大刀・鉄製直刀・革綴頸甲、肩甲・ヤリガンナ 大阪城天守閣蔵

コーナー展示 貫名菰翁(ぬきなすうおう)
—江戸時代唐様の美—
平成29年8月8日(火)～9月10日(日)

貫名菰翁(海屋(かいおく)：1778～1863)は、阿波徳島出身の書家で、京都で儒学を講じながら、中国晋の王羲之父子や唐の褚遂良らの影響を受けて大成した「法帖派」で「晋唐書風派」の巨星として、存命当時には江戸の「市河米庵」「巻菱湖」とならんで「幕末の三筆」の一人として上方を中心に書名が知られました。さらに、明治期には、当時の漢字(唐様)書道界の中心的存在で、かつ、現代漢字書道の祖と崇められる日下部鳴鶴が「近世日本の書聖」と称えたため、現代書道にも多大なる影響を与えています。

本展では、晩年を堺市浜寺に居住し、書家・書道史研究家として知られた故山下是臣氏が生涯を通じて研鑽し蒐集された「日本三大貫名コレクション」として書道界を中心に常々の公開を求められている当館蔵「山下是臣旧蔵貫名菰翁コレクション」から、「晋唐書風」第一人者貫名菰翁の三種の書風「海屋書風」・「菰翁書風」・「中風様書風」の優品を紹介いたしました。

書に興味をお持ちの方々はお好みの文字を、書の世界をあまりご存じでない方々にも、お手本や鑑賞の対象としてみたいと思える美しい文字を見つけていただけたものと思います。(倉橋)

【展示作品】(全て当館蔵)

- | | |
|------------|----|
| 1. 海屋書風作品 | |
| 賀語五言二句 | 1幅 |
| 十字二句「竹楼待月」 | 対幅 |
| 2. 菰翁書風作品 | |
| 十字二句「天地無私」 | 対幅 |
| 3. 中風様書風作品 | |
| 一行書「一諾黄金信」 | 1幅 |
| 題富士升龍図七言絶句 | 1幅 |
| | 他 |

コーナー展示

「百舌鳥野に広がる古墳～定の山古墳」

平成29年10月31日(火)～12月24日(日)

北区百舌鳥梅町1丁に所在する定の山古墳は、帆立貝形の前方後円墳で、墳丘部分の一部は公園として保存されています。史跡指定に向けての発掘調査が実施されることになり、その期間に合わせて過去の調査で出土した資料を展示しました。

平成6年度に発掘調査された後円部北側の周濠内からは須恵器が出土しており、陶邑編年Ⅰ型式4段階の5世紀後半代に造営されたと思われます。

「年代のものさし」とされる須恵器の出土により、古墳の築造年代がより明らかになりました。

また、この須恵器と同型式の須恵器(重要文化財・MT206-Ⅰ号窯)も展示して、両者の比較検討を行いました。(續)



【主な展示品】

・定の山古墳

須恵器坏蓋、坏身、有蓋高坏、高坏蓋、はそう、壺、円筒埴輪、朝顔形埴輪、土師器高坏、木製品など19点

堺市文化財課蔵

・陶邑窯跡群(MT206-Ⅰ号窯)

須恵器坏身、坏蓋、有蓋高坏など12点

[重要文化財]

当館蔵

コーナー展示

趙陶斎(ちょうとうさい)の書画

平成29年11月11日(土)～12月24日(日)

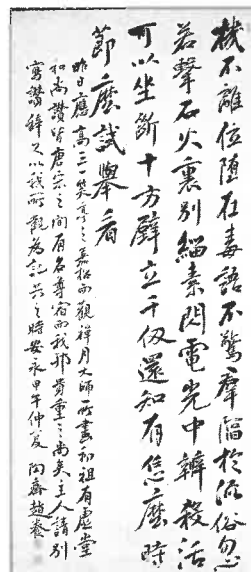
趙陶斎(1713～1786)は、長崎で清国人の父と日本人の母の間に生まれ、黄檗宗の僧侶として20年ほど過ごしたのち、還俗して日本各地を遍歴しました。のち、58歳以降生涯を終えるまで堺の町で過ごしました。別号の「枸杞園」は、在堺時代に生計の一助として販売していた「枳拘丸(丸薬)」に因んでいます。

彼の書は、上方を中心とする儒者・文人世界に大きな影響を与えました。さらに、後世、日本の「唐様」の近世の第一人者と称されました。

本展は、館蔵品から堺所縁の人物である趙陶斎の書画作品を紹介いたしました。(倉橋)

【展示作品】(全て当館蔵)

いろは仮名屏風 2曲1隻
七言律詩 対幅
四行詩 1幅
芦船図 1幅
山水図自画賛 1幅
他



四行詩



いろは仮名屏風